人と人とのつながり

ほかの地域に勝てるものは「海」だった。ならば「海」を全面的に押し出して、まちづくりの頭に観光を付けて“観光地域まちづくり”を推進。

これまで、観光客のおもてなしのために、まちづくりも考えながら、いろいろな団体が協働して創り上げることが、地域に根付いていなかった。

まちづくり、そして観光とは、人と人とのつながり。目指すのは、魅力的な人がいて、その人を訪ねることができるような地域。そんな地域づくりを進めたい。

ますだ・けんたろう
㈱タクト代表取締役

◆プロフィール
14年前から下田で開催されてきた海辺の祭典・ビッグシャワーでは、露店を出した海岸で音楽コンサート運営。５年ほど前からは砂浜でのビーチヨガやノルディックウォーキングといった、海洋浴を楽しんでもらうためのプログラムを取り入れている。雇用促進による地域活性化の目的から一昨年に設立した会社で、観光客に龍馬ゆかりの地を巡るツアーも提供している。ビッグシャワーとともに観光資源を活かした魅力的なまちづくりに奔走する。

増田健太朗

バットは振らなきゃ ボールは当たらない

“地域の魅力を伝える”がコンセプト。人の顔が見える情報発信に心掛け、マスコミ露出を多くする。そして地域資源を“育てる”ことを意識する。地産地消は当たり前で、地域が知恵で生み出し知恵で笑う―「知産知笑」の推進。

コロッケを売るのではなく、瀬戸谷の名前を売って、全国に情報発信する。

すべてのイベントに対して“感動”が残るような仕掛けを。“感動”は多くの人に分ければ分けるほど広がり、共感していく。

こばやし・ひろき
せとやコロッケの会会長

◆プロフィール
2009年藤枝市大久保地区で販売するコロッケを中心に据え、地区全体で情報発信をするために「せとやコロッケの会」を設立。瀬戸谷を売るコロッケとして年間100本以上、報道機関で取り上げられる。情報の広がりから、地域・産業間とのつながりができたことで、団体間を連携した地域振興イベントを企画運営し、全国に広がる企画も多数プロデュースし、地域振興に貢献している。

小林浩樹

杵塚 歩

地域の宝に気付くこと

都会の人は地域の何でもない、当たり前の景色や提供したお茶に感動してくれる。これが地域に自信を与え、自分たちの気付きとなり地域の“魅力”の再発見となる。自分たちの足元をしっかり見ることが大切。

いろいろな分野の人と語り合うことを大切にしている。語り合いの場を大切にすることで、自分たちが生きていく上で、本当に大切なものを教えてくれるときがある。それがうれしいし、楽しければ人がまた人を呼ぶ。

きねづか・あゆみ
㈲人と農・自然をつなぐ会　茶農家

◆プロフィール
1975年、父(杵塚敏明)と地元・藤枝市滝沢の農家２軒で無農薬茶の会を発足。平成９年に「(有)人と農・自然をつなぐ会」を設立。無農薬茶の品質や会員同士のつながりを維持する体制を構築。カリフォルニア州立大学バークレー校で社会学と心理学を学び、2003年に帰国して就農する。茶とみかんの生産に加え、味噌、ジャムなどの加工品づくり、米や麦などの生産も新たに着手。
また、平成21年には農業青年が共に楽しみ、若者がつながる場を創造するために「わこうど結ネット」を設立し地域内外の若者を集め、交流会や農業体験ツアーを実施している。

寸又峡温泉開湯50周年記念まちづくりフォーラム

若者が地域を変える　Event Report

鞍打大輔

山の暮らしを守る

地域で暮らすことに“誇り”を持ち続けられるような地域づくりを展開し、いわば「あきらめムード」を断ち切る。

地域づくりはやる気のある人たちだけで進めていくのではなく、やる気のない人にも、どうやる気を持ってもらうか、その工夫をする。そのためには、しっかりコミュニケーションを取り、対話してお互いを理解することがまず一歩。

まちづくりを語るときには“説得力”が必要。そのためにはその地域に暮らし、地域での責任や役割を果たすことで信頼を得る。

くらうち・だいすけ
NPO法人日本上流文化圏研究所事務局長

◆プロフィール
日本上流文化圏研究所は、山梨県早川町のシンクタンク兼中間支援組織として、地域活性化のための様々な取組みを展開している。具体的には、「山の暮らしを守る」を合言葉に、山の暮らしの価値を伝える活動、山の担い手を育てる活動、山の暮らしの課題を解決に導く活動など精力的に展開している。1999年に早稲田大学大学院卒業後、早川町の魅力に魅かれ日本上流文化圏研究所に入所し現在は、事務局長として活躍中である。